学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学
大学院

京都芸術大学 大学院

KYOTO UNIVERSITY OF THE ARTS GRADUATE SCHOOL

入学案内 2023

photo: Natsumi Kinugasa

世界にひらかれた、創造と研究の現場。

学生の数だけ、創造性があり、伸ばし方がある。

京都芸術大学 大学院では、
一人ひとりが自己の核となる専門性を身につけ、
「個」としての研鑽を重ねてきました。

それと同時に、それぞれの専門領域を越えて
拡張される芸術領域のなかで、
「多様性」にあふれた学びと出会いを体験し、
ゆたかな可能性を広げてきました。

そして今、領域だけでなく言語や文化の違いを越えて、
志ある芸術家や研究者たちが
世界中から京都に集まり、
より国際的かつ学際的な環境が育まれようとしています。

どこよりもひらかれた「創造と研究の現場」として、
どこまでも大きなチャンスとつながれる大学院へ。

私たちは挑戦と変革を続けていきます。

CONTENTS

2 3つの専攻が目指す姿／研究科長メッセージ
3 学び方／留学生支援
4 領域紹介
5 大学院の特長
6 Incubation Programs
7 研究センターとの連携
8 スケジュール
9 カリキュラム概要（修士課程）
10 カリキュラム概要（博士課程）
11 教育目標（芸術専攻・芸術環境専攻）
13 入学説明会・お問合せ先・アクセス

3つの専攻が目指す姿

社会と芸術のあらたな関係を目指して

2023年4月、京都芸術大学 大学院を改編します。
著しく変化する社会で、創造的な知恵と技の獲得を目指し、
新たに対面授業とオンライン授業を併用した「芸術環境専攻」を設けます。

Intensive Programs

対面

芸術専攻

少数精鋭の体制で
専門性を磨き、
トップアーティストへの道を拓く

対面 + オンライン

芸術環境専攻

多様性にあふれた
自由な交流と探究から、
芸術を社会へ還元する

Extensive Programs

完全オンライン

芸術専攻（通信教育）

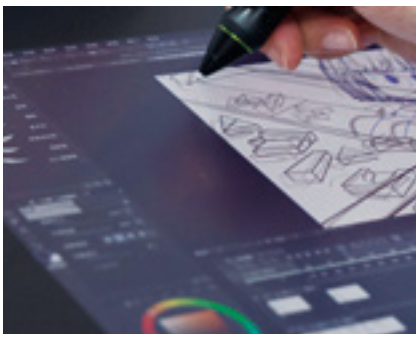
社会人が学びやすいweb環境で
思考と実践力を磨き、
芸術運動の担い手となる

研究科長メッセージ
Message

上村 博

京都大学大学院文学研究科博士課程中退。京都大学文学部哲学科助手、パリ第四大学研究員を経て、1995年より本学に勤務。2019年4月より現職。芸術の理論的研究、特に芸術による場所と記憶の形成作用について研究。長らく社会人教育に携わる。

本大学院では、「芸術専攻」「芸術環境専攻」「芸術専攻（通信教育）」の３専攻の中に、美術、デザイン、文化財科学、文化研究、芸術教育など実に多様な専門分野がひしめき合っています。それぞれ弾力性のある実践的な研究制作指導によって、清新な価値創出に取り組む研究機関です。既存の方法に甘んじることなく、方法そのものを組み立てる構想力を持ち、社会的要請に応えつつ、さらに新たな価値観を提示しようという意欲のある方は、ぜひ本大学院に集まってください。芸術の力で、新しい社会のかたちをつくりましょう。



学び方／留学生支援

一人ひとりの学びを、
自分に適した場所で積み上げる

本学大学院修士課程を修了すると、「修士（芸術）」（MFA）または「修士（学術）」（MA）が取得でき、博士課程を修了すると、「博士（芸術）」（DFA）または「博士（学術）」（PhD）が取得できます。芸術専攻・芸術環境専攻・芸術専攻（通信教育）のそれぞれの学び方や芸術専攻・芸術環境専攻を学ぶ留学生が安心して授業に取り組める特長的な学びを紹介します。

Intensive Programs

芸術専攻　対面

京都・瓜生山キャンパスで少人数ゼミのなか、研究指導を受けつつ、研究や制作を進めます。美術作品の制作や文化財保存修復の研究などに適した専攻です。国内外のアート関係者との交流機会をさまざまに設け、大学附属の研究センターと連携して学びを深めていきます。また、グローバル・ゼミは英語による受講で修士号の取得が可能です。

芸術環境専攻　対面 ＋ オンライン

京都・瓜生山キャンパスや東京・外苑キャンパスなどでの集中授業と遠隔授業とを併用することで、授業の場所や時間割の制限が比較的少なく、現地調査やスタジオワークに適した専攻です。オンライン授業の割合を増やすことで、対面授業を専門分野の特性に応じて週2日～月1日とし、各自に合わせた学びの形態が選択可能。個人の実践的な活動や社会参加をサポートします。授業外での関わりにも注力し、バーチャル空間でのコミュニケーションツールを使用して、密な関係を築き上げます。

日本語学校との連携

外国人留学生がスムーズに研究・制作を進められるよう、本学大学院ではさまざまなケア・システムを整備しています。日常的なコミュニケーションはもちろん、論文執筆においても高い日本語力は必要不可欠。本学大学院では併設校「京都文化日本語学校」と連携した、日本語力向上のための科目を正課内に開設しています。日常生活の相談は、学生支援の専門部署である学生生活窓口に留学生担当を配置。言語、文化、友人関係といったあらゆる相談を受け付けています。さらに、メンタル面での不調をはじめとするセンシティブな悩みについての窓口として学生相談室を設置しており、専門のカウンセラーが1対1で学生個々の問題に真摯に対応します。

Extensive Programs

芸術専攻（通信教育）

完全オンライン

通学0日、完全オンラインで修了まで学べます。学習用WEBサイト「airU（エアー・ユー）マイページ」やオンライン会議システムZoom等を活用。レポート・作品提出、動画講義、個人ワークまたはグループワーク、研究記録、個別指導等をすべてWEBサイト上で行うことで、忙しい社会人でも各自がそれぞれのペースで、研究・制作を深められます。

領域紹介

※本パンフレットは「芸術専攻」「芸術環境専攻」のパンフレットです。
「芸術専攻（通信教育）」のパンフレットとは異なりますのでご注意ください。

修士課程

	領域・ゼミ	分野
芸術専攻	グローバル・ゼミ	芸術表現・研究〈リサーチベースドアート、キュレトリアルスタディーズ〉
	歴史遺産研究	歴史文化論、文化財科学、考古学、文化財保存修復論、庭園文化論
	美術工芸	彫刻・立体造形、陶芸、染織テキスタイル、写真・映像、日本画、油画、版画
芸術環境専攻	情報デザイン・プロダクトデザイン	情報デザイン、グラフィックデザイン、ビジュアルコミュニケーションデザイン、キャラクターデザイン、ゲームデザイン、プロダクトデザイン、メディアコンテンツ制作〈イラストレーション、絵本、マンガ、アニメーション〉
	文化デザイン・芸術教育	文化創生〈芸術教育（社会人学習支援、こども芸術教育、福祉のアート）、地域文化デザイン（SDGsデザイン、地域ブランディング、文化資源活用）〉、メディアコンテンツ研究〈映像、舞台、文学、マンガ、アニメーション〉、超域制作学プログラム〈アートプロデュース（後藤ラボ）、アートプロジェクト（保科ラボ）〉
	建築・環境デザイン	建築デザイン、インテリアデザイン、ランドスケープデザイン、地域デザイン、日本庭園〈設計、保全、活用〉
芸術専攻（通信教育）	芸術学・文化遺産	芸術学〈芸術理論・西洋美術史、日本・東洋美術史〉、文化遺産〈歴史遺産学、芸能史・伝統文化研究〉
	美術・工芸	日本画、洋画、工芸デザイン
	写真・映像	〈写真、動画、アニメーション、写真映像に関する展示・出版〉
	文芸	〈文芸創作（純文学）、文芸創作（エンターテインメント）、評論・編集・活動支援〉
	コミュニケーションデザイン	グラフィックデザイン、映像デザイン、空間デザイン
	学際デザイン研究	〈デザイン思考・伝統文化の活用〉

博士課程

芸術専攻	研究／研究・制作

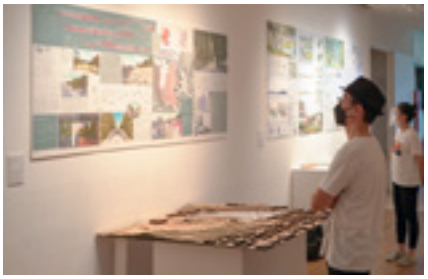
大学院の特長

新たな社会の創造・成長を
牽引していくリーダーを、世界へ輩出する

[拡張される芸術領域]

社会を動かす知恵と技を手に入れる

今や芸術や芸術をとりまく社会の変化は著しく、芸術の専門家に期待されるものも大きく変わってきています。そもそも芸術とは、本来、社会から隔絶した特殊な職域ではなく、さまざまな局面で創発的に発揮される知恵と技のことです。本学大学院では、今日の社会のさまざまな領域で課題を発見し、創造的な提案ができる人材の育成を目指しています。各専攻、各分野がそれぞれの研究対象に即して実践的指導を行うだけでなく、今日の文明についての批判的思考力を鍛えることで、単なる専門業界への入り口となるだけでなく、新たなアイデア、視点を獲得し、自身の研究者、制作者としての可能性を広げることができます。



[創造と研究]

創造の現場と、研究の現場の、緊密な連携

多彩な工房やスタジオ、研究センター、さらには劇場施設まで有する本学大学院では、「創造の現場」と「研究の現場」がさまざまなかたちで連携し、多くの成果が生まれています。表現者は、創作だけでなく研究活動にも携わることで、自己の作品を言語化し、より力強い表現を手にすることができます。一方で、研究者は、表現者たちが芸術作品を生み出していく過程にふれることで、書物の中からは汲み取れない生きた芸術を学ぶことができます。多様な研究や創造が常に間近にある環境は、各自の活動に豊かな広がりをもたらしています。

photo：顧 剣亨

[インキュベーション]

国内外で活躍する、リーダーの養成

多くの領域・分野において、国際社会の中でリーダーシップを発揮できる人材が求められています。本学大学院では、ICA京都やアルトテックといったインキュベーション機構を設け、大学院生や修了生たちが社会で活躍するための支援を行っています。また、大学院生たちも、さまざまな国籍や背景を持つ者が集まり、日常的なコミュニケーションを通して国際感覚を養うことができる環境となっています。また、長く日本文化の中心として栄えた京都で学び、暮らす経験は、日本と世界との関係を見つめるうえで、貴重な示唆を与えてくれるはずです。

photo：高橋 保世

Incubation Programs

世界にひらかれる大学院

本学大学院には大学院生や修了生の社会参加、国際交流を行うインキュベーションプログラムが用意されています。
国内外のアート関係者との交流機会をさまざまに設け、
それを通じて自立した芸術家やデザイナーとして活動する支援を行っています。

CASE 01 | ARTOTHÈQUE

ARTOTHÈQUE(アルトテック)は大学院附属のコマーシャルギャラリーとして、本学の修了生のみならず次世代の若い才能を支援してきました。その活動はARTISTS' FAIR KYOTOへと発展し、多くの若いアーティストが作品を描くことで自立できるようになっています。コーポレートコレクションとして、ユニバーサルミュージックジャパン・OCA TOKYO(三菱地所)・DMG森精機などの美術館規模の収集が次々と誕生し、この活動に参加を希望する大学院志望者はますます増え続けています。

[ディレクターメッセージ]

アートのフェアトレード

近視眼的にグローバルアートマーケットを目指すのでなはく、その問題点を解消するフェアトレード的な取り組みを目指しています。批評プロジェクトやNFT、海外のレジデンスへの紹介も含め、ネオ・アートワールドを一緒に生成しましょう!!

椿 昇
コンテンポラリーアーティスト、本学教授、ARTISTS' FAIR KYOTOディレクターなど。

CASE 02 | ICA京都

本学のInstitute of Contemporary Arts Kyoto — 略称ICA京都は、アートの創作・展示・批評・研究がグローバルに展開されるようになった現代にあって、内外の同様なセンターとネットワークを結びながら、留学やレジデンシーなどによる交流を具体的に促進する交換台のような役割を果たすべく、2020年度に創設されました。

[所長メッセージ]

「ICA京都」創設にあたって

たんなるジャーナリスティックな情報でも、アカデミックな論考でもない、グローバルなアート・シーンの具体的現実にアクセスし、またそれについて深く考えたいと思っているすべての人に注目していただければ、そして積極的に参加していただければ幸いです。

浅田 彰
京都大学卒業。同大学人文科学研究所・経済研究所を経て本学教授。

CASE 03 | Pr PROJECTS

第一線で活躍するアーティスト、ギャラリスト、コレクター、キュレーターなどをゲストに招き、レクチャー、講評、ディスカッションなどの幅広い活動を展開。多角的な思考力や技術力を向上させるとともに、プロフェッショナルなアーティストを目指すものとしての"基礎体力"をつけていきます。その時々の学生の研究、制作状況に応じて、臨機応変な運営を行います。

[ディレクターメッセージ]

実践的なアーティスト活動の方法を学ぶ

若手アーティストから「修了後のサヴァイヴァル方法を知りたかった」とよく耳にします。このプロジェクトでは、アーティストとして必要な「実践的な力(方法・思考法)」を養うための仕組みをつくり、学生ファーストのイベント、企画を行います。

大庭 大介
画家。2005年本学卒業後、2007年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野修了。

研究センターとの連携

理論と実践力を養う

本学には大学の附属機関として独立したプログラムのもとで活動している研究センターがあります。
大学院生はこれらのセンターが行う実際のプロジェクトに参加し研究を進めることができ、
専門知識だけでなく、自主性や行動力、実社会で通用するスキルやノウハウなどを修得していきます。

CASE 01 | 舞台芸術研究センター

舞台芸術の創造過程の総体を研究対象として、「創造の現場」と「学術研究」との有機的な結びつきを図るべく2001年に発足した舞台芸術研究センターは、学内劇場である「京都芸術劇場」を運営し、多様性を持ったプログラムを実践。また学内外の研究員による研究活動、及び他研究機関との共同研究などを推進し、舞台創造の現場と連携をとったネットワークづくりを目指しています。

[センター長メッセージ]

舞台芸術の「創造」と「研究」のダイナミックな融合

本センターは、<創造の現場>と<学術研究>を結びつける「場」です。その「場」で舞台というエンターテインメントを芸術全体の中で融合させながら、その成果を教育・社会に還元し、創造と研究を連携させた活動を行っています。大学院生の皆さんにこの「場」に参加していただくことを期待しています。

安藤 善隆
1965年生まれ。編集者・著述家・プロデューサー。

CASE 02 | 日本庭園・歴史遺産研究センター

1996年に設立された日本庭園についての専門研究機関で、その後、歴史遺産研究部門を加え、活動の場を拡げました。日本の庭園文化に関する特色ある研究のほか、地方公共団体など多方面から、歴史的遺産の保全や活用に関する調査を受託しています。大学院生は、本研究部門が行う庭園文化に関する研究や公開講座の運営、受託調査に携わり、実践的な活動を行うことができます。

[センター長メッセージ]

受託研究に参加し、文化財保存修復の実践力を養う

本年度は史跡名勝平等院庭園管理、石清水八幡宮空中茶室・庭園復元研究プロジェクトなどの受託研究をはじめ、研究成果を発信する文化財保存修復基礎講座、公開シンポジウム等の自主事業も開催します。大学院生の皆さんもぜひご参加ください。

仲 隆裕
元京都市文化財保護技師。博士（農学・京都大学）。歴史遺産学科長。

CASE 03 | 文明哲学研究所

文明哲学研究所は、人類の幸福と平和な世界の実現を祈念した徳山詳直初代理事長の意思により2012年に設立されました。本学の建学理念である「藝術立国」の根底にある「芸術とは何か」「人間とは何か」という問いに向き合い、社会の中での芸術の役割、芸術と科学の関係、芸術が人のこころに及ぼす影響を人文社会科学、行動科学など多面的なアプローチで明らかにすることを目指しています。

[所長メッセージ]

多彩なアプローチで芸術の価値を探究し発信

真、善、とならぶ芸術（美）のもつ価値の本質について、さまざまな分野の研究者とともに考え、発信していきたいと思っています。芸術活動それ自身が人間の生き方や社会の在り方を変える原動力となることを、日々の研究の成果を通して示してゆくことが当研究所の使命です。

吉川 左紀子
本学学長。京都大学名誉教授。博士（教育学）。専門は認知心理学。
photo：中山 博喜

スケジュール

多様な刺激に満ちた日々

修士・博士課程の各年次において、大学院生はそれぞれの研究課題に向き合いながら、
多様性あふれる環境の中で多くの刺激を受けます。そして、学生同士のディスカッションや指導教員、
他分野の教員たちからのアドバイスを通して、各自の専門性をより一層深めていきます。

2022年度スケジュール

博士学位申請の詳細はP10参照

		修士	博士
前期科目履修	4月	○指導教員の確定・研究計画書の提出 ◎研究報告・研究計画書の提出	○指導教員の確定・研究計画書の提出 ◉中間発表会 論文題目・概要提出※
	5月	研究・制作・発表助成審査 ○テーマ発表会	研究・制作・発表助成審査 ◎中間発表会
	6月		
	7月	◎作品展示「SPURT展」作品講評会 ◎中間発表会（修士論文）	論文提出※
集中授業	8月		
	9月		○中間発表会
後期科目履修	10月	◎論文題目提出	
	11月	○作品展示「HOP展」作品講評会 ○中間発表会（修士論文）	○◎作品展示「D♯展」作品講評会 ◉学位申請（博士論文等提出） リポジトリ公開※
	12月		
	1月	◎学位審査（修士論文等提出） ◎公開口頭試問	○◎研究・制作成果報告書提出 ◎中間研究発表会 ◉学位審査公開口頭試問 ◉学位審査作品展
	2月	◎修了展・修士論文発表会 ◎東京展	
	3月	○研究報告書および 次年度研究計画書の作成 ◎学位授与式	○◎研究報告書および 次年度研究計画書の作成 ◉学位授与式

○1年次　◎2年次　◉3年次（博士課程のみ）　※「大学院紀要」エントリー時

SPURT展

SPURT展は修士課程2年生たちが学内ギャラリーにて、修了研究・制作に向けて作品表現の最終的な方向性を確認する、すなわちSPURTをかけるための展覧会です。学内外を問わず教員やゲストから広く作品へのコメントやアドバイスを受けることにより、大学院生各自は視野を深め、鍛えられ、最終成果への道筋を見出していくことになる、重要な意義を持った展覧会です。

HOP展

HOP展は修士課程1年生たちが、次なるSTEPへと着実に、かつ正確に一歩を踏み出し、そして力強くジャンプすることを願い、開催する展覧会です。この展覧会を開催することで、出展者の学生たちが切磋琢磨し、また各自の表現のさらなる深化への気づき、そして領域を超えての活発な批評と交流の場になっていくことを期待しています。

D♯展

D♯展は、博士課程の「研究・制作」プログラムの1年生および2年生が各年度の制作活動の成果を提示し、各自の研究における制作活動の位置づけをより明確化するために教育の一環として企画した展覧会です。音楽記号の#が意味する「半音上げ」るように、博士課程の大学院生としての矜持を持ち、それぞれの専門領域において、研究課題への取り組みを公開します。

※年度により展覧会の開催有無が異なる場合があります。

カリキュラム概要（修士課程）

必修要件を含み32単位以上を修得し、「論文」または「作品と論文」の審査に合格すると、
修士（芸術）の学位を取得できます。但し、歴史遺産研究、文化デザイン・芸術教育、
建築・環境デザインなどの専門領域の研究論文については、内容によって修士（学術）が授与されます。

必修特論（必修履修） 日本の芸術文化を広い視野から概観すると共に、トップランナーの言葉に刺激を受け自己の専門的視座を問い直す。（芸術文化論特論1・2 各2単位）	さまざまな地域、時代、ジャンルを超えた芸術文化の主題を中心に展開し、全学生の問題意識の共有化を図る必修科目。第一線で活躍している研究者、作家等をゲストとして招へいし、講義・ディスカッションを通して問題発見、批評、分析、論述能力の伸長を期す。	
原論（1科目以上選択履修） 芸術文化の基底となる考え方と研究の基本的道筋を学ぶ。（各2単位）	1 思想と（しての）芸術 2 歴史文化 ー文化財保存修復の視点からみた（美術）作品 3 日本美術史ー描かれた行事と風俗 4 心の内なる環境デザイン 5 アジアのアートとキュレーションの現在 6 エキゾチシズムとローカリズム 7 日本文化論を英語で読む 8 美術を空間との関係から考える 9 建学の理念と「芸術と平和」 10 地域文化と芸術教育 ※2022年度の内容です。	
分野特論（1科目以上選択履修） 研究・制作の基礎、基盤となる、より専門的視座に特化した講義科目。（各4単位）	1 現代アートとは何か：「美」から「知」へ 2 日本の喫茶文化 3 文化財保存修復の理論と技術 4 現代作家としての思考法と プレゼンテーションの技術を学ぶ 5 ポスト・ヒューマニズム時代の芸術／ 近現代美術と批評の観点から読み解く 6 アナロジカル・シンキング（類推的思考） 7 視覚形成論 ：日本のビジュアルカルチャーとグラフィックデザイン 8 統合的視点で考える現代デザイン特論 9 建築設計特論 10 庭園論・ランドスケープデザイン論 11 映画を介した芸術論＋芸術における言語表現 12 ジャポニズムと芸能・芸道 13 現代美術を取り巻く世界の構造と将来を踏まえた美術史、 社会史、伝統文化などの探求 14 近代工芸運動・デザイン運動の歴史から現在の課題を探る 15 近現代美術史、西洋哲学史、現代思想の確認 16 グローバルな視野を持つ人材育成のための 特別強化プログラム 17・18 コミュニティーと芸術 19 マンガ・アニメーション・ゲームで研究するための教養 ※2022年度の内容です。	
演習・研究 指導教員による研究・制作指導を中心にしながら、分野横断的な領域ゼミ、専攻内合同プレゼンテーション等を通じて複数の教員の視点によるアドバイスも定期的に行っていく。	演習 1 （4単位）	課題設定のための基本調査、研究方法の実践的検討など、 修士課程における基盤を整える。
	演習 2 （4単位）	専門領域における演習によって知見をさらに深める。
	研究 1 （4単位）	専門演習からの継続性を重視しつつ、 得られた成果を展開して学位審査に向けた課題を設定する。
	研究 2 （4単位）	研究成果の提示方法の研鑽に主眼を置き、 学位申請のための成果物を完成させる。

特殊演習 領域を問わず、全領域の学生を対象としたテーマ別演習。	研究・制作テーマ別の合同演習
学術基礎 1〜7	日本語による論述能力の向上、学術論文執筆における基礎的技法の習得、 英語による口述プレゼンテーションのスキルアップなどを目的とした基礎講義。
建築実務演習 1〜5 建築総合演習・建築総合研究	建築設計の現場における補助業務と実務を通じて知識や技術、 職業倫理の基礎から応用までを身につける。

＋

論文	作品 ＋ 論文
［学位取得］ 修士（学術）または 修士（芸術）	［学位取得］ 修士（芸術）

カリキュラム概要（博士課程）

16単位以上を修得し、論文の審査および試験に合格すると博士（芸術）の学位を取得できます。
研究論文の内容によって、本学が認めた場合、博士（学術）が授与されます。

	研　究	研　究　・　制　作
	学内外の研究者との連携を視野に入れつつ、自らの研究課題を追求し、独自の学問的領域を確立。	制作に関わる作家、素材、技法、理論などの研究を進めつつ、各分野で制作者としての自立を目指す。
必修特論（必修履修） 第一線で活躍する研究者、作家、伝統芸術継承者などを特別講師として招く。講義・ディスカッションにより、問題の発見、批評、分析、論述能力を研鑽し、修士課程を深化させるかたちで、各自の研究および表現の刺激となる幅広い見識を得る。（4単位）	比較芸術文化論特論 インターネットを通じた遠隔地での受講が可能	
研究科目（3科目必修） 1年次「理論研究1」、2年次「理論研究2」、3年次「理論研究3」を履修。論文指導を担当する教員の指導を受けながら、博士論文執筆を進める。（各4単位）	理論研究1～3	
制作科目 博士論文執筆の過程から得られた専門的知識を生かした作品の制作を行う。制作を行うことにより論文の内容の充実を図り、また、理論研究を進めることにより、作品の強度を高める。		制作研究1～3 修了要件には含まない
	＋	
	博士論文	博士論文および作品
	［学位取得］ 博士（学術）または博士（芸術）	［学位取得］ 博士（芸術）

［ 博士課程学位審査について ］

各年次に1本の査読付論文を執筆し、
本学が発行する研究論文集『大学院紀要』をはじめとした学術誌に掲載、もしくは学会で発表することが求められます。
3年次にはそれまでに執筆した3本の論文（研究成果）をベースとして、序文、結論を付加し1本の博士論文に整えます。
その後、論文審査と口頭試問による学位審査に臨みます。

1年次 論文提出 → 査読 → 学術誌掲載・学会発表 → 2年次 論文提出 → 査読 → 学術誌掲載・学会発表 → 3年次 論文提出 → 査読 → 学術誌掲載・学会発表 → 博士論文提出 → 学位審査 論文審査／口頭試問

［ 2021年度 論文題目 ］

◎太田省吾研究 ー「述語の演劇」へのプロセスー
◎現代日本に生きる人々の営みの記憶、行為の記憶のアーカイブとしての博物館展示研究
◎沓脱の変遷と役割に関する研究 ー中世・近世における庭園と建築の関係を中心にー
◎絹本における美人画の白肌と髪の生え際の表現と素材・技法に関する研究 ー上村松園を中心にー
◎ピクトグラムにおける対話性 ーインタラクティブ性をもつサインデザインの提案ー

研究論文集『大学院紀要』や博士論文はWEBサイトにリポジトリ公開を行っています。

教育目標（芸術専攻・芸術環境専攻）

教育目標（3つのポリシー）

> 大学の基本使命

芸術を学ぶ者たちが、来るべき文明の姿を思い描き、人類危機の時代を克服するという強い意志をどう身につけるか。
そしてまた、他者の痛みに想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう培うか。
すなわち、良心をもって社会を変革する芸術家魂をどう育てるか。藝術立国とは、藝術立国を担う人間の成長にほかならない。
芸術文化を原動力とする文明への展望と、人類と自然への深い愛情に満ちた哲学を持った人間を輩出する。
それこそが、本学の最も重要な使命である。

> 建学の理念

芸術と哲学によって、新しい人間観、世界観の創造を目指す。

> 教育目標

人類が直面する困難な課題を克服するために、
「人間力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることのできる人材を育成する。

大学院 芸術研究科 芸術専攻（修士課程）

> ディプロマ・ポリシー

芸術専攻修士課程では、芸術・文化に関する広範で清新な知識を基礎にして、
社会や自然における芸術の意義と役割を認識するとともに、
個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、
高度な成果物として表現できる人材を育成します。
さらに、学位の種別に応じて、次の能力の獲得を目指します。

・既存の価値観にとらわれることなく、新たな視点による学際的研究に取り組み、
　その成果を学術論文として的確にまとめる能力（「修士（学術）」授与の場合）。
・自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、
　高度な意志疎通能力と呈示能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、
　芸術分野の将来的発展に寄与する能力（「修士（芸術）」授与の場合）。

> カリキュラム・ポリシー

・「芸術による平和創造」という本学全体の理念の共有化を図るとともに、
　日本の芸術・文化の普遍性と個性を広い視野から概観することによって、
　学生の研究または研究・制作活動を刺激し、テーマの発見・探究・創出の糸口を提示します。
・研究または研究・制作を進める上での基礎となる方法に関して、
　芸術研究の支柱である「比較論、歴史、造形史、精神史、身体論的研究」の各視座からその基底となる考え方を教示します。
・各学生の専門的視座に特化した講義科目を開講し、新たな視点による芸術文化研究あるいは芸術表現に取り組む基礎を養います。
・各学生に主たる指導教員を配し、個別指導を行います。
　1年次は、主として問題意識の啓発とその研究展開を図る方法論を指導します。
　2年次は、1年次からの継続性を重視しつつ、学位審査に向けた（研究または研究・制作）課題の設定と、
　その提示方法の研鑽に主眼を置くものとします。
・各学年において中間発表会を開催し、主たる指導教員以外からの指導を仰ぎ、修士成果物の質的向上を図ります。

> アドミッション・ポリシー

求める学生像および入学者選抜の基本方針は以下の通りです。

1. 豊かな感性と柔軟な思考を有し、学士課程の基礎をふまえ、
　各自の専門領域を構築して造形思想を深めるための能力を有していること。
2. 芸術に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な思考とコミュニケーションの能力を有していること。
※日本語と英語の読解力・表現力を有していること。

大学院 芸術研究科 芸術環境専攻（修士課程）

> ディプロマ・ポリシー

芸術環境専攻修士課程では、芸術的洗練と哲学的思索によって人類の福祉や生活環境の向上に資するための研究遂行を目的とし、
国際的視野をもちつつ、地域や組織のなかでその研究成果を活かすことのできる人材を育成します。
本専攻で修了時に学生が身につけるべき能力を以下のように定め、所定単位を修得し、学位申請提出物の審査に合格することで、
これらの能力を獲得したものとみなし、修士の学位を授与します。

・ 地域や組織の問題をときほぐし、みずからの任務を見定める理解力
・ 着想のひらめきを具体的な空間に展開できるしなやかな構想力
・ 他者と協力して現実に向き合い、たくましく計画を遂行する制作力

> カリキュラム・ポリシー

・ 専攻共通科目（原論・特論）では、国際的、世界史的な視野からみずからの研究制作を反省し、
その理論的基盤と芸術教養を身につけます。
・ 分野特論では、現役の専門家による特化したテーマの講義を受け、
今日的な課題の理解とその具体的な解決に向けた方法論を学びます。
・ 研究指導科目（演習・研究）では、専門家による定期的な指導と集中ワークショップ、
それにゼミでの研究交流を通じて学生各自の研究制作を遂行します。
・ これらに加え、特殊演習・インターンシップ科目では、専門分野を越えた活動の機会を提供することで、
学生各自の知見をさらに拡げます。

上記の各科目はその特性に応じ、以下のような授業形態をとります。

・ 遠隔講義と反転学習（原論・特論）
・ 集中的なワークショップやプロジェクトへの参加と振り返り（分野特論と演習・研究の一部）
・ 遠隔通信手段を利用した継続的な研究指導とディスカッション（演習・研究）

> アドミッション・ポリシー

求める学生像および入学者選抜の基本方針は以下の通りです。

1. 社会の課題に真摯に向き合い、みずからの力で解決をはかろうとする意欲を持っていること。
2. 芸術に関する基礎的な教養を有し、柔軟な思考とコミュニケーションの能力を有していること。
3. 各自の専門分野に応じて、修士研究・修士制作を遂行しうる基礎的な能力を有していること。

※日本語と英語の読解力・表現力を有していること。

大学院 芸術研究科 芸術専攻（博士課程）

> ディプロマ・ポリシー

芸術専攻博士課程では、人類の叡智を発展的に継承し、
芸術・文化に関する優れた理論研究または研究・制作に邁進し、その成果を国際社会に広く発信することによって、
芸術による平和創造の礎を築く人材を育成します。

・ 理論研究においては、芸術による平和創造に寄与する価値観の構築を目指し、既存の学問分野にとらわれることなく、
幅広い視野と斬新な視点によって芸術文化の神髄に迫る能力の獲得を目指します。
・ 芸術表現・制作においては、柔軟な思考と斬新な技術によって創造の地平を切り開き、
真に現代的な芸術表現に挑み続ける能力の獲得を目指します。

> カリキュラム・ポリシー

・ 徹底した個別指導を基本とし、研究者／制作者としての自立を促します。
・ 研究発表・展覧会での作品発表を積極的に促し、多くの視点からの批判を仰ぐことにより、
研究／制作の質的向上を図ります。

> アドミッション・ポリシー

求める学生像および入学者選抜の基本方針は以下の通りです。

1. 専門領域における広範かつ深淵な知見を有し、かつ新たな価値観の構築にむけて真摯に取り組む姿勢を有していること。
2. 基本的には3年間で日本語による博士論文を完成させうる研究計画と遂行力を有していること。
3. 外国語（基本的に英語）による専門的語学力を有していること。

入学説明会・教員面談

入学説明会の参加や教員面談を希望される場合は、必要事項を予約フォームに記載し、申込期間内に必ず予約してください。詳細は下記申込先へ。

◎入学説明会　各課程・領域の担当教員が入学説明会を行います。

日 程	時 間	参加申込期間
6月25日（土）	10:00〜17:00	6月11日（土）〜6月23日（木）

◎教員面談　「参加申込期間」に申込後、必ず「教員面談申込期間」に面談時間の申込を行ってください。

	日 程	時 間	参加申込期間	教員面談申込期間
第1回	6月25日（土）※1	10:00〜17:00	6月11日（土）〜6月16日（木）	6月21日（火）〜6月23日（木）
第2回	7月23日（土）		7月9日（土）〜7月14日（木）	7月19日（火）〜7月21日（木）
	7月24日（日）※2			
第3回	11月 5日（土）		10月22日（土）〜10月27日（木）	11月1日（火）〜11月3日（木・祝）
	11月 6日（日）※2			

【 実施方法 】オンライン

【　申込先　】https://www.kyoto-art.ac.jp/graduate/admission/briefing/

※応募人数によっては個別面談ではなく、グループ面談になる可能性があります。

※1 情報デザイン・プロダクトデザイン領域のみ開催
※2 芸術環境専攻のみ開催

お問合せ先

京都芸術大学 大学院　0120-591-200（アドミッション・オフィス）　graduate@office.kyoto-art.ac.jp

受付時間：月〜土 9:00〜17:30　日曜・祝日・年末年始は受付できません。

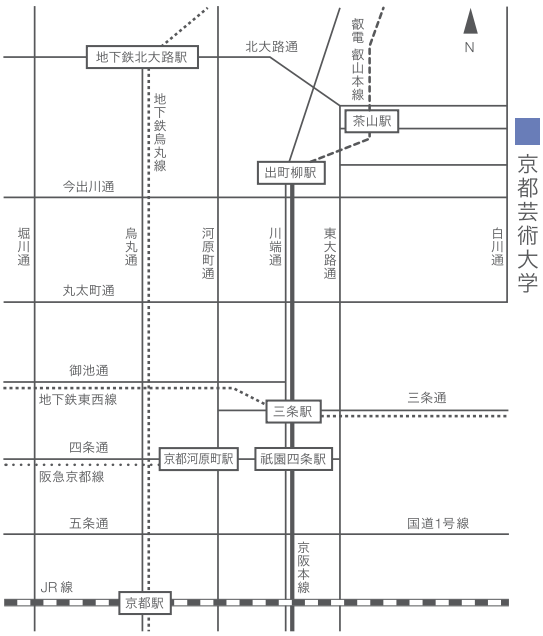
通信制大学院　0120-20-9141　tsushin@office.kyoto-art.ac.jp

芸術研究科［通信教育］芸術専攻（修士課程）については本資料に記載されていない項目がありますので、大学WEBサイトから通信制大学院のパンフレットをご確認ください。

海外事務所

ソウル事務所（韓国）　TEL: +82 70-7012-8260　seoul@office.kyoto-art.ac.jp
台北事務所（台湾）　TEL: +886 975-922-905　c-wu@office.kyoto-art.ac.jp
上海事務所（中国）　TEL: +86 156-1801-0354　shanghai@office.kyoto-art.ac.jp

アクセス



京都・瓜生山（うりゅうやま）キャンパス

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

［ 交通機関 ］

- 地下鉄「北大路駅」（北大路駅バスターミナル）より
  市バス204系統循環／
  銀閣寺方面「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車（所要時間約15分）
  ※地下鉄北大路駅へはJR京都駅より約15分
- 京阪「出町柳駅」より
  市バス3系統／上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前行
  「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車（所要時間約15分）
  叡山電車（京阪「出町柳駅」乗りかえ）「茶山駅」下車後、徒歩約10分
- 阪急「京都河原町駅」より
  市バス5系統／
  銀閣寺・岩倉行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車（所要時間約30分）
  市バス上終町3系統／
  上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車
  （所要時間約30分）
- JR「京都駅」より
  市バス5系統／銀閣寺・岩倉行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車（所要時間約50分）

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。
※本学には駐車場がありません。車・バイクでの来学はご遠慮ください。
※本学の最寄りのバス停は「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」です。

学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学　大学院　〈URL〉https://www.kyoto-art.ac.jp/graduate/